



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Operations Agent

ソフトウェアバージョン: 12.01

Windows®、HP-UX、Linux、Solaris、AIX オペレーティングシステム向け

コンセプト ガイド

ドキュメント リリース日: 2017 年 8 月
ソフトウェア リリース日: 2017 年 8 月

ご注意

保証について

Hewlett Packard Enterprise Development Company, L.P 製品およびサービスに関する保証は、これらの製品およびサービスに付随する明示的保証書に記載された内容に限定されます。本文書には、追加の保証を規定している箇所はありません。HPE は、本文書に含まれる技術的または編集上の誤りや遺漏に対して、責任を負わないものとします。

この情報は予告なしに変更されることがあります。

法律上の権利の制限について

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPE から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づいて米国政府にライセンスが付与されます。

著作権について

© Copyright 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft® および Windows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

この製品には、汎用圧縮ライブラリ「zlib」インターフェイス (Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler) が含まれます。

ドキュメントの更新情報

本書のタイトルページには、以下の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日付。ドキュメントがアップデートされるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日付。ソフトウェアのこのバージョンのリリース日付を示します。

最新のアップデートを確認したり、ドキュメントの最新エディションを使用しているかどうかを確認したりするには、以下の URL にアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

このサイトでは、HPE Passport への登録とサインインが必要となります。HPE Passport ID を登録するには、次の URL にアクセスしてください。 <https://hpp12.passport.hpe.com/hppcf/createuser.do>

または、HPEソフトウェアサポートページ上部の登録リンクをクリックしてください。

また、適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいた場合は、アップデート版または新版をお送りします。詳細は、正規販売代理店にお問い合わせください。

サポート

次の HPE ソフトウェア サポート オンラインの Web サイトにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com>

この Web サイトには HPE ソフトウェアの製品、サービス、サポートに関する詳細情報とコンタクト先が示してあります。

HPE ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ技術情報を提供しています。ビジネスの管理に必要なインタラクティブな技術サポート ツールに、すばやく効率的にアクセスすることができます。サポート Web サイトを使用することにより、重要なサポート カスタマとして以下のメリットを受けることができます。

- 興味のある知識に関するドキュメントを検索する
- サポート ケースおよび機能強化要求を提出し追跡する
- ソフトウェアのパッチをダウンロードする
- サポート 契約を管理する
- HPE サポートの連絡先を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア カスタマと議論を始める
- ソフトウェアトレーニングに関して調査し登録する

ほとんどのサポート領域では、HPE Passport ユーザーとして登録し、サイン インする必要があります。また、多くの場合、サポート契約が必要となります。HPE Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hpe.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルの詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE Software Solutions Now は、HPSWのソリューションと統合に関するポータル Web サイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHPE製品ソリューションを検索したり、HPE 製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトの URL は **<https://softwaresupport.hpe.com/>** です。

目次

第1章: はじめに	5
HPE Operations Agent の操作	6
第2章: HPE Operations Agent による監視	7
一元化された状況監視	7
パフォーマンス監視	8
メトリック	8
メトリック クラス	8
ベースライン計算	9
Smart Plug-ins for Infrastructure (Infrastructure SPIs) でのベースライン データの使用	9
メトリック ストリーミング	10
第3章: HPE Operations Agent のコンポーネント	11
運用監視コンポーネント	11
パフォーマンス収集コンポーネント	13
oacore を使用したデータ収集	14
メトリック データストア	14
GlancePlus	15
リアルタイム計測コンポーネント	16
リアルタイムメトリックアクセスコンポーネント	16
第4章: 仮想化環境における HPE Operations Agent	17
Integrity VM 環境における HPE Operations Agent	17
AIX を使用した HPE Operations Agent	17
Solaris Zones を使用した HPE Operations Agent	18
第5章: HPE Operations Agent Health View を使用した HPE Operations Agent の状況監視	19
第6章: 他の HPE ソフトウェア製品との統合	20
ドキュメントのフィードバックを送信	22

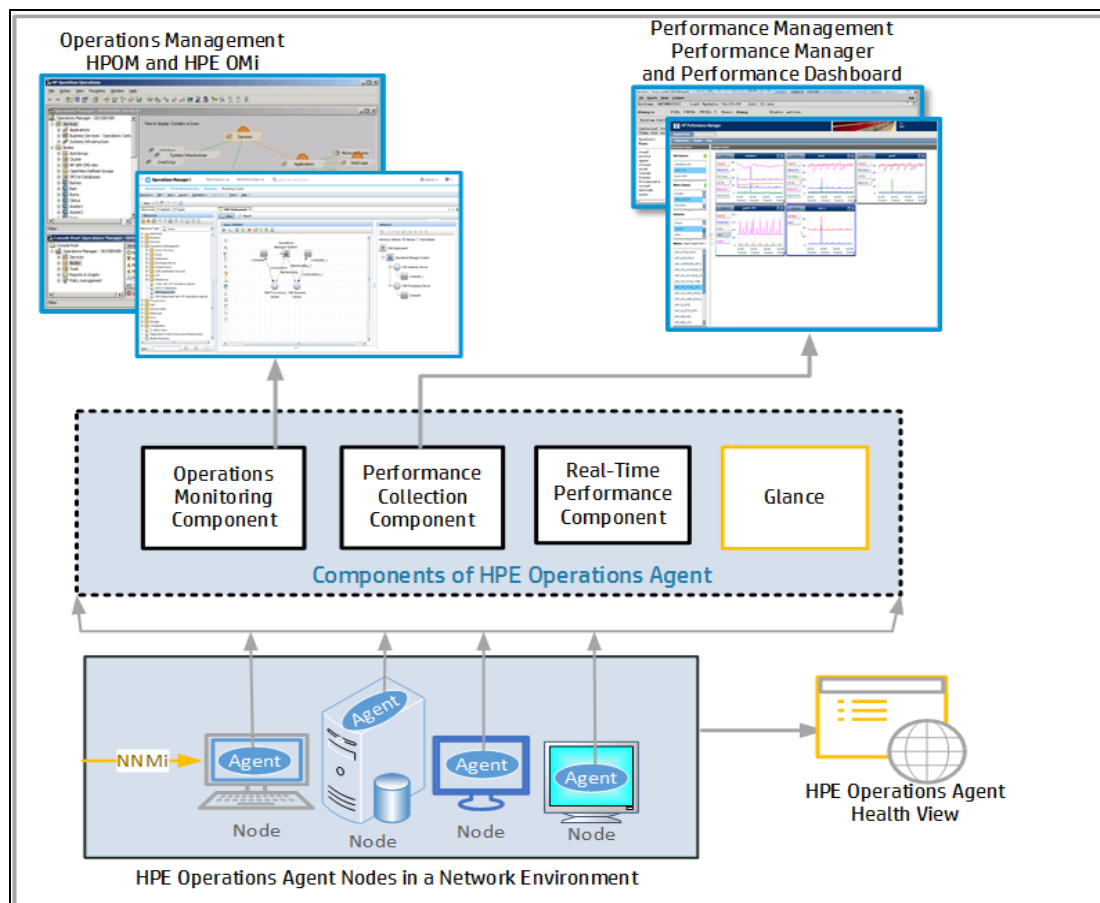
第1章: はじめに

HPE Operations Agent はシステムの重要な要素の状況、パフォーマンス、リソース使用率、および可用性を示すメトリックを収集することにより、システムの監視を可能にします。HPE Operations Agent は組み込まれたデータコレクタを使用し、システム全体のパフォーマンスおよび状況のデータを継続的に収集し、収集したデータをメトリックデータストアに格納します。

HPE Operations Agent を HPOM、Operations Manager i (OMi)、Performance Manager、および Performance Dashboard と組み合わせて使用すると、ビジネスアプリケーション、インフラストラクチャ (システム リソース) 監視対象システムで実行されているアプリケーション負荷を監視できるようになります。HPE Operations Agent は障害を統合し、以下を可能にすることで、IT アプリケーション インフラストラクチャ全体のパフォーマンス監視を可能にします。

- **オペレーション管理** - HPE Operations Agent は異種ソースから収集したイベントおよびパフォーマンスデータを統合します
- **パフォーマンス管理** - HPE Operations Agent はパフォーマンスの問題を特定し、リアルタイムの診断機能を提供します

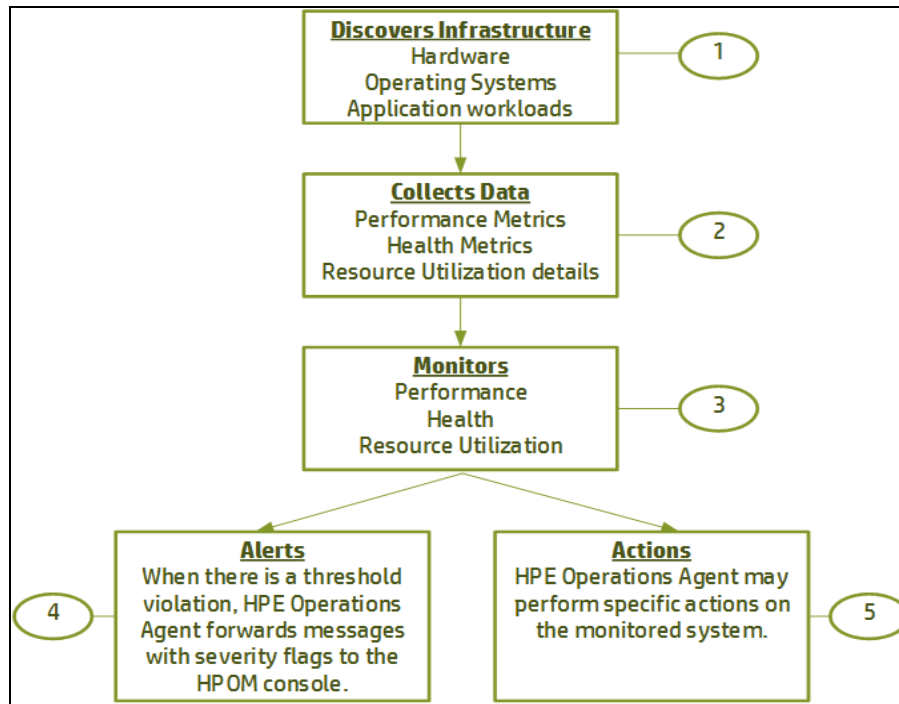
次の図は、ネットワーク環境での HPE Operations Agent の機能の概要を示します。



インタラクティブな画像 - 各コンポーネントをクリックすると、詳細が表示されます。

HPE Operations Agent の操作

HPE Operations Agent は以下の順序で機能します。



インタラクティブな画像 - 各コンポーネントをクリックすると、詳細が表示されます。

1. **インフラストラクチャの検出**: HPE Operations Agent をシステムにインストールして構成すると、ハードウェア (CPU、ディスクなど) やオペレーティングシステム、アプリケーション負荷などのインフラストラクチャ要素が検出されます。
2. **データ収集**: HPE Operations Agent によって、システムパフォーマンスデータの収集とログ処理が開始されます。収集されたシステムパラメータは、エージェントのデータストアにメトリック形式で格納されます。HPE Operations Agent を設定し、デフォルトの収集スケジュールと格納するメトリックの範囲を変更することができます。
3. **監視**: 配布されたポリシーの仕様に基づいて、HPE Operations Agent はメトリックの値と事前設定値を比較します。
4. **アラート**: しきい値違反が発生すると、HPE Operations Agent は重要度フラグ付きのメッセージを HPOM コンソールに転送し、監視システムのパフォーマンスボトルネックを通知します。
5. **アクション**: 監視対象システム上に事前設定された特定のアクションが HPE Operations Agent によって実行されます。

第2章：HPE Operations Agent による監視

要件に基づいて、HPE Operations Agent をインストールして、システムのパフォーマンスと状況の両方、または以下のいずれかを監視することができます。

- 一元化された状況監視
- パフォーマンス監視

一元化された状況監視

HPOM の管理概念は、管理サーバーと管理ノード間の通信に基づいています。HPOM ベースの管理環境に HPE Operations Agent をインストールすると、ネットワーク環境に配備されたシステムとアプリケーションを、中央コンソールから監視、管理できます。HPOM コンソールからエージェントノードに配布されたポリシーを使用すれば、エージェントのさまざまな監視機能を有効化できます。

HPE Operations Agent はさまざまなシステムパフォーマンスメトリックとプロセスイベントを収集し、関連する情報を HPOM コンソールにメッセージ形式で転送します。HPOM はこれらのメッセージを受け取ると、管理ノード上の問題を防止または修正するアクションで応答します。

SPI を使用すると、監視対象システム上で実行されているアプリケーション負荷に関する重要なメトリックを収集できます。システムパフォーマンスとアプリケーションのメトリックを組み合わせることにより、ハードウェアおよびソフトウェア資産の状況とパフォーマンスを、バランスよく調査することができます。

注： HPE Operations Agent ノードは HTTPS モード通信を使用することにより、管理サーバーと同様に、互いに通信することができます。詳細については、『HPE Operations Agent ユーザーガイド』の「安全な環境における HPE Operations Agent」の章および『HPE Operations Agent and HPE Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「安全な環境での HPE Operations Agent の設定」の章を参照してください。

ポリシーと SPI の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- HPE Operations Smart Plug-in for System Infrastructure ユーザーガイド
- HPE Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure ユーザーガイド
- HPE Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure ユーザーガイド

パフォーマンス監視

HPE Operations Agent が HPOM によって管理されていない場合、HPE Operations Agent は、システム全体のパフォーマンス データを継続的に収集し、収集したデータをデータストアに格納します。

ovcodutil プログラムや extract プログラムなどのユーティリティを使用して、収集したデータを抽出することができます。extract プログラムの詳細については、『HPE Operations Agent ユーザー ガイド』を参照してください。HPE Operations Agent を HP Performance Manager や HP Reporter などのデータ分析 ツールと統合し、グラフやレポートを使用してデータを分析することができます。

メトリック

メトリックは、システム (またはアプリケーション) の運用またはパフォーマンスの具体的特性を定義する測定基準です。HPE Operations Agent の収集メカニズムにより、これらの測定値が収集され、今後使用するためにデータストアに格納されます。メトリック値としては、数字、ブール値、文字列などがあり得ます。

メトリック クラス

システム要素のパフォーマンスに関する完全な全体像を提供する関連するメトリック セットは、エージェントのデータストアにメトリック クラスとして表現されます。

HPE Operations Agent は以下のメトリック クラスを使用します。

1. **グローバル:** HPE Operations Agent は、リソースのすべてのインスタンスからデータを収集します。複数 インスタンス リソースの場合、HPE Operations Agent はすべてのインスタンスのメトリック値を集計し、集計 (平均) 値をグローバル クラス配下に記録します。このメトリック クラスの接頭辞は GBL_ です。
2. **プロセス:** 監視システムで稼働するすべてのプロセスに関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は PROC_ です。
3. **アプリケーション:** アプリケーションは実際には監視システムで稼働する複数のプロセスの集合であり、HPE Operations Agent はそのアプリケーションを定義するメカニズムを提供しています。HPE Operations Agent の設定でアプリケーション クラスを定義すると、監視システムで稼働する事前定義されたすべてのアプリケーションに関連するメトリックを含むことができます。このメトリック クラスの接頭辞は APP_ です。
4. **ディスク:** 監視システムのディスクに関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は BYDSK_ です。
5. **ネットワーク インターフェイス:** 監視システムで利用可能なすべてのネットワーク インターフェイスに関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は BYNETIF_ です。

6. **CPU:** 監視システムで利用可能なすべての CPU に関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は BYCPU_ です。
7. **コア CPU:** ハイパー スレッディングが有効なシステムにおける CPU の 1 コア当りの値を示すすべてのメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は BYCORE_ です。
8. **ファイルシステム:** 監視システムで利用可能なすべてのファイルシステムに関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は FS_ です。
9. **論理システム:** HPE Operations Agent は、仮想システムにインストールすることが可能です。このメトリック クラスには、ホスト システムの論理要素 (ゲスト システムの要素) のパフォーマンスを示すすべてのメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は BYLS_ です。
10. **論理ボリューム:** 監視システムの論理ボリュームに関連するすべてのメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は LV_ です。
11. **トランザクション:** 監視システムで実行されるすべてのシステムトランザクションに関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は TT_ です。
12. **HBA:** 監視システムで稼働するすべてのホスト バス アダプタ (HBA) に関連するメトリックが含まれます。このメトリック クラスの接頭辞は BYHBA_ です。

ベースライン計算

HPE Operations Agent の監視機能とアラート機能は、ベースライン計算を使用することで強化されます。ベースライン計算とは、履歴データに基づいて基準値を計算して返すプロセスのことです。¹ 特定の期間のベースライン データを計算するには、前の週の対応する期間に収集されたメトリック データが用いられます。ベースライン データは、毎時末に計算され、メトリック データストアに保存されます。ベースライン データには、最小値、最大値、平均値、標準偏差値が含まれます。

ベースライン データは次の用途に用いられます。

- 毎日のパフォーマンスを監視するための基準値の設定。
- パフォーマンスの傾向を分析するための基準値の設定。
- リソース使用率のパターンを分析するための最適なしきい値の動的な設定。

Smart Plug-ins for Infrastructure (Infrastructure SPIs) でのベースライン データの使用

注:

Infrastructure SPI 11.1x (AdaptiveThresholding) ポリシーは HPE Operations Agent バージョン 12.01 で動作します。

Infrastructure SPI 12.01 (AdaptiveThresholding) ポリシーは HPE Operations Agent バージョン 11.xx では動作しません。

HPE Operations Agent のデータ コレクタによって収集されたデータは、ベースライン データの計算に使用されます。ベースライン データは次の InfraSPI ポリシーによって使用されます。SI-ConfigureBaselining ポリシーと SI-AdaptivethresholdingMonitor ポリシー。これらのポリシーはパフォーマンスとリソース使用率の監視に使用されます。

SI-ConfigureBaselining ポリシーと SI-AdaptivethresholdingMonitor ポリシーは、最適なしきい値を設定するのに適応しきい値のコンセプトを使用します。適応しきい値を使用すれば、しきい値を動的に計算できます。しきい値違反が発生すると必ず警告メッセージが生成されます。

詳細については、『HPE Operations Agent ユーザー ガイド』を参照してください。

メトリック ストリーミング

HPE Operations Agent を使用すると、カスタム メトリックをデフォルトのシステム パフォーマンス メトリック クラスと共にメトリック データストアに記録できます。

HPE Operations Agent 12.01 では、メトリック ストリーミング機能を利用することで、カスタム メトリックとシステム パフォーマンス メトリックをストリーミングで使用することもできます。メトリック ストリーミングは、**メトリック ストリーミング設定** ポリシーを使用して設定できます。

仕組み:

メトリック ストリーミングを使用すると、メトリック データをターゲットのサブスクライバ (例: パフォーマンス エンジン) にストリーミングして、そのデータをグラフの作成や分析に使用できます。データを **hpsensor** に送信し、HPE Operations Manager i (OMi) から HPE Operations Agent に**メトリック ストリーミング設定** ポリシーをデプロイして、メトリック データをストリーミングすることができます。

hpsensor にデータを送信するために、REST ベースのインターフェイスが用意されています。**hpsensor** は、設定された間隔でターゲットのサブスクライバに送信 データを発行します。データを **hpsensor** に送信するには、その前に、提供されている REST API を使用して、登録情報を **hpsensor** にポストする必要があります。

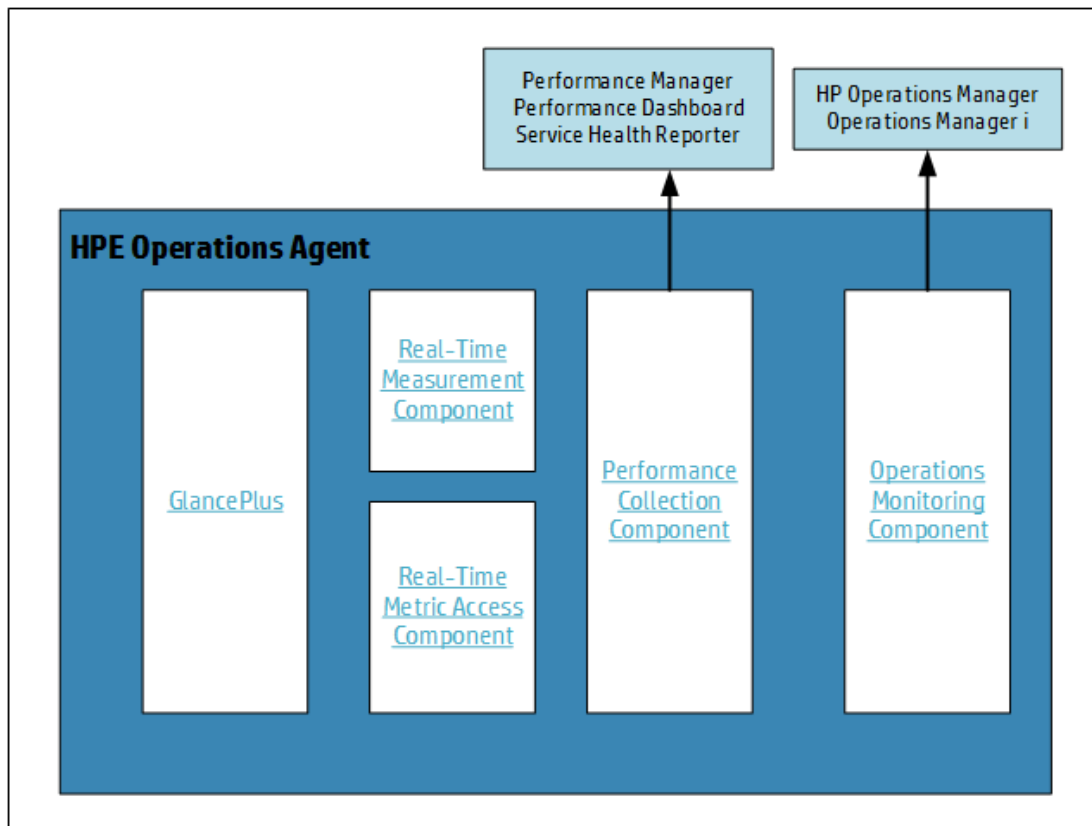
カスタム データのログ機能とメトリック ストリーミング機能の使用の詳細については、『HPE Operations Agent ユーザー ガイド』を参照してください。

¹履歴データは、1 時間前までに収集されたデータで、メトリック データストアに格納されます。

第3章：HPE Operations Agent のコンポーネント

HPE Operations Agent には、以下の主な運用コンポーネントが含まれています。

- [運用監視](#)
- [パフォーマンス収集](#)
- [リアルタイム計測](#)
- [リアルタイムメトリックアクセス](#)
- [GlancePlus](#)



インタラクティブな画像 - 各コンポーネントをクリックすると、詳細が表示されます。

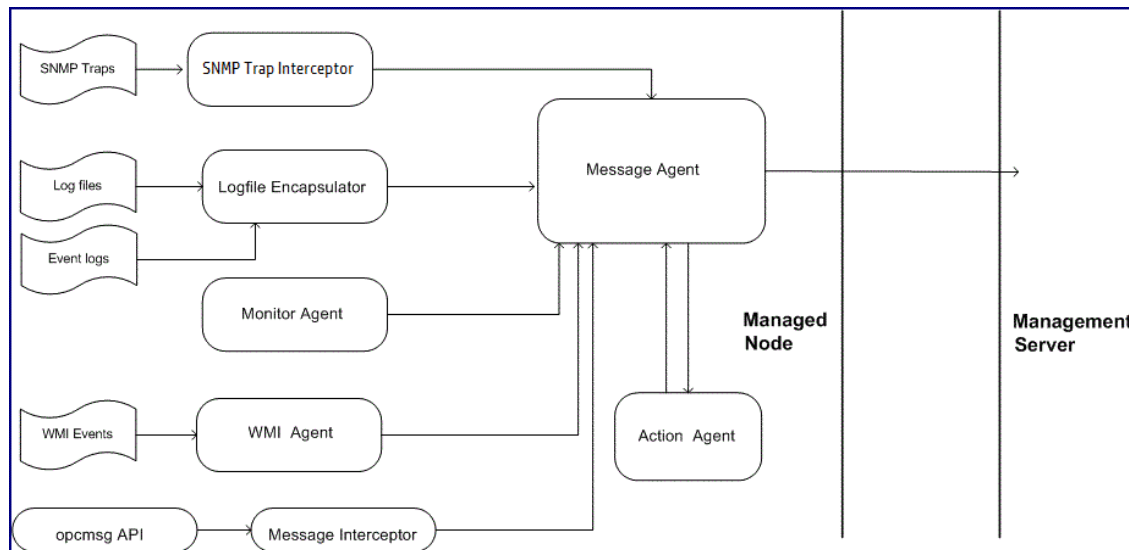
運用監視コンポーネント

このコンポーネントは HP Operations OS Inst Adv SW LTU、および HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を使用する場合にのみ使用できます。

運用監視コンポーネントは、HPE Operations Agent の監視およびメッセージング機能を構築します。運用監視コンポーネントを使用して、以下のタスクを実行できます。

- 事前定義されたしきい値と対比して、データコレクタが収集したデータを監視する
- 監視メトリックが事前設定されたしきい値に違反したとき、アラートメッセージを生成する
- メッセージを HPOM コンソールに転送する

運用監視コンポーネントは以下のコンポーネントで構成されます。



メッセージ エージェント: メッセージ エージェントは監視エージェント、ログ ファイル エンキャプスレータ、イベント インターセプタなどのさまざまなメッセージ ソースからメッセージを受信します。そして、適切なアラートと通知を HPOM メッセージ ブラウザに送信します。

SNMP トラップ インターセプタ: SNMP トラップ インターセプタは、ノードで生成された、またはアプリケーションからの SNMP トラップを傍受します。ポリシーに基づいてイベントを統合または抑制し、メッセージ エージェントをトリガし、SNMP トラップを HPOM メッセージ ブラウザに送信します。

ログ ファイル エンキャプスレータ: ログ ファイル エンキャプスレータ コンポーネントは、オペレーティング システムやノード上で稼働するアプリケーションにより生成されたさまざまなログ ファイルを分析します。

ノード上で使用可能なログ ファイル エントリポリシーから得られる情報に基づいて、ログ ファイル エンキャプスレータは使用可能なログ ファイルから特定のメッセージまたはパターンを検索します。メッセージ文字列またはパターンが一致すると、ログ ファイル エンキャプスレータはメッセージをメッセージ エージェントに送信し、そのエージェントは適切な通知を HPOM メッセージ ブラウザに送信します。

監視エージェント: 監視エージェントは定期的な間隔で、さまざまな情報源 (監視オブジェクト) から取得したデータを事前定義されたしきい値と対比して評価し、しきい値違反の発生時に適切なメッセージをメッセージ エージェントに送信します。

WMI インターセプタ: WMI インターセプタにより、WMI (Windows Management Instrumentation) を使用してリモート ノード (またはローカルノード) と通信することが可能となります。

ポリシーの Windows 管理 インターフェイス タイプを使用すれば、ローカルで使用可能な、またはリモート システムの WMI クラスとインスタンスを監視するように HPE Operations Agent に指示することができます。ポリシーに設定された条件に基づいて、WMI インターセプタは適切なメッセージを生成する、またはアクションを開始することができます。

メッセージ インターセプタ: メッセージ インターセプタ コンポーネントは、opcmmsg ユーティリティとさまざまな API から到達したメッセージに対して、追加の処理タスクを実行します。管理ノードで使用可能なメッセージ インターセプタ ポリシーの詳細設定に基づいて、メッセージ インターセプタは以下のアクションを実行できます。

- メッセージのフィルタリング
- メッセージの破棄
- HPOM コンソールへのメッセージ転送

アクション エージェント: アクション エージェントは管理 サーバーまたはメッセージ エージェントから指示を受け取り、ローカルノード上でアクションを起動します。アクションは自動アクションとオペレータ起動アクションに分類されます。自動アクションは事前に設定されメッセージにリンクされた、イベントが生成されるとすぐにトリガされるイベントに対する応答です。オペレータ起動アクションは、事前に設定されメッセージにリンクされた、オペレータによってトリガされるイベントに対する応答です。

検出エージェント: 検出エージェントは HPE Operations Agent が管理ノードで稼働するサービスの詳細を収集し、収集した詳細をローカル データストアに格納できるようにします。

パフォーマンス収集コンポーネント

HP Operations OS Inst Adv SW LTU、Glance Pak Software LTU、HP Operations OS Inst Perf SW LTU、および HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を使用する場合にのみ、パフォーマンス収集コンポーネントを使用できます。

HPE Operations Agent の中核にはパフォーマンス収集コンポーネントが存在しており、ノードからパフォーマンス メトリックを収集し、収集した情報をデータストアに記録できるようにします。パフォーマンス データコレクタ (oacore) は、定期的な間隔でシステムパフォーマンス メトリックを収集できるようにします。収集間隔に加えて、収集するデータタイプを設定することができます。パフォーマンス収集コンポーネントのパフォーマンスアラーム機能により、事前に定義した条件に基づいてイベントを生成することができます。

oacore を使用したデータ収集

パフォーマンス データ コレクタ (**oacore**) コレクタは、システムの状況とパフォーマンスを全体的にとらえるさまざまなデータを収集します。収集した情報はデータストアに格納され、分析のためにシステムで使用可能で、HP Performance Manager や HP Reporter などのツールに使用されます。データ コレクタは次の情報を取得します。

- システム全体のリソース使用率情報
- プロセス データ
- さまざまなデバイスのパフォーマンス データ
- トランザクション データ
- 論理システム データ

収集パラメータファイル (**parm** ファイル) には、特定のデータタイプを収集しデータ収集間隔を定義するために、データコレクタに対する指示が含まれています。このファイルは ASCII ファイルであり、デフォルトのデータ収集メカニズムをカスタマイズするために使用できます。詳細については、『HPE Operations Agent ユーザーガイド』を参照してください。

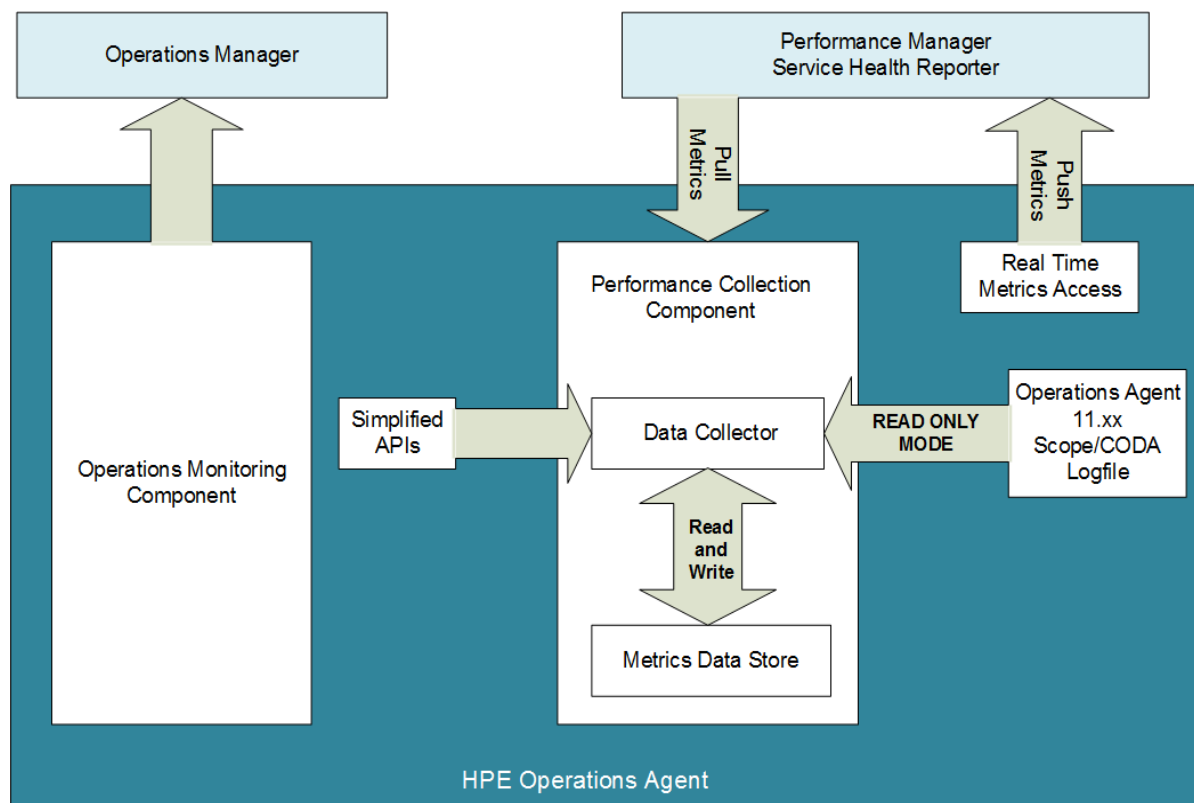
メトリック データストア

HPE Operations Agent バージョン 12.01 では、ログファイルに基づくデータストアに代わって、メトリック データストアが使用されます。CODA、SCOPE、DSI ログファイルなどの複数のデータストアが、RDBMS (Relational Database Management System) に基づく 1 つのデータストアに統合されています。

CODA および scope プロセス (UNIX と Linux ノードでは `scopeux`、Windows ノードでは `scopent`) は、**oacore** プロセスと呼ばれる 1 つのプロセスに統合されています。**oacore** プロセスは、システムパフォーマンスおよびカスタム データに対する読み取りと書き込みの両方のインターフェイスを提供します。

CODA データベースファイル、SCOPE ログファイル、DSI ログファイルに記録されている古いデータは、読み取り専用モードで保持されます。この古いデータには、`ovcodutil`、`extract` といったユーティリティ、または HP Performance Manager や HP Reporter といったレポート作成ツールを使用してアクセスできます。

次の図は、HPE Operations Agent の新しいアーキテクチャの概要を示しています。



インタラクティブな画像 - 各コンポーネントをクリックすると、詳細が表示されます。

データの格納およびデータ収集のメカニズムは変更されましたが、ポリシーを使用したしきい値比較プロセスは同じです。

GlancePlus

このコンポーネントは Glance Pak Software LTU および Glance Software LTU を使用する場合のみ使用できます。このコンポーネントは、UNIX ノードでのみ使用できます。

HP GlancePlus は、オンラインリアルタイムシステムパフォーマンスの強力な監視および診断ツールです。また、このツールにより、ローカルまたはリモートシステムでシステムパフォーマンス問題が発生したときに、それを特定してトラブルシューティングすることができます。GlancePlus は問題の根本原因を詳細に分析するオプションを提供し、システムで発生した問題の視覚化を可能とします。

たとえば、CPU 使用率が長期間にわたってしきい値を超えていることがわかった場合、稼働しているすべてのアプリケーションのリストを調べ、プロセスリストから CPU 使用率の最も高いプロセスを特定することができます。さらに、特定のプロセスに関連するスレッドを参照し、CPU リソースを最も消費している実際のスレッドを詳細に分析することができます。

リアルタイム計測コンポーネント

このコンポーネントは HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU を使用する場合のみ使用できません。

リアルタイム計測 (RTM) コンポーネントは、RTMA コンポーネントを使用してさまざまなノードと通信しながら、安全な HTTPS モード通信を通じてリアルタイムのパフォーマンスメトリックにアクセスできるようにします。このコンポーネントが存在しない場合は、TCP/IP のみを使用した RTMA コンポーネントを使用できます。

リアルタイムメトリックアクセスコンポーネント

このコンポーネントは HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU、Glance Pak Software LTU または Glance Software LTU を使用する場合のみ使用できます。

リアルタイムメトリックアクセス (RTMA) コンポーネントにより、ローカルまたはリモートで、システムパフォーマンスメトリックにリアルタイムでアクセス可能となります。RTMA コンポーネントの中核モジュールであるパフォーマンスデーモン (perfd) は、HPE Operations Agent が起動したときにデフォルトで起動し、システムパフォーマンスメトリックにリアルタイムで容易にアクセスできるようにします。中央の HPE Operations Agent ノードから、RTMA コンポーネントを使用できる他のノードのパフォーマンスメトリックを、リアルタイムで監視できます。

第4章: 仮想化環境における HPE Operations Agent

HPE Operations Agent を使用して、仮想システムをホストする物理システムに加え、仮想システムの状況とパフォーマンスを監視することができます。HPE Operations Agent は、以下の仮想化技術をサポートしています。

- 完全仮想化 - HP Integrity Virtual Machines (Integrity VM)
- 準仮想化 - AIX 論理パーティション (LPAR)
- OS レベルの仮想化 - Solaris Zone、AIX ワークロード パーティション (WPAR)

Integrity VM 環境における HPE Operations Agent

Integrity VM 環境には、以下の主なコンポーネントが含まれています。

- VM ホスト
- 仮想マシン (ゲスト)

HPE Operations Agent を VM ホストにインストールすると、以下のデータを収集できます。

- システム全体に関するパフォーマンス、アプリケーション、トランザクション、およびリソースの使用データ
- 個々の仮想マシンに関するパフォーマンスおよびリソースの使用データ
- 個々のゲストオペレーティングシステムに関するパフォーマンスおよびリソースのデータ (BYLS メトリッククラスを使用して記録)

物理システムにインストールされている HPE Operations Agent から収集可能なすべての情報は、HPE Operations Agent を VM ホスト上でホストされている仮想マシンにインストールすると、収集できます。

AIX を使用した HPE Operations Agent

HPE Operations Agent は、AIX 論理パーティション (LPAR) での準仮想化をサポートしています。HPE Operations Agent を 1 つのみの LPAR ノード上にインストールすることで、1 つのフレームで使用可能なすべての AIX LPAR から、パフォーマンスデータを収集できます。監視対象のすべての LPAR が存在する AIX フレームからパフォーマンスデータを収集するようにエージェントを設定することもできます。

parm ファイルのログ **logicalsystems** パラメータを使用すると、HPE Operations Agent のデータコレクタは論理システムに関する情報をデータストアに記録できます。AIX では、論理システムは AIX 5L V5.3 ML3 以降の LPAR、AIX 6.1 TL2 のグローバル環境の WPAR にのみ対応しています。

Solaris Zones を使用した HPE Operations Agent

Solaris サーバー (バージョン 10 以降) の仮想化環境は、以下のコンポーネントで構成されています。

- グローバルゾーン: システムのデフォルト ゾーンであり、システム全体の管理コンソールとしても機能します。
- 非グローバルゾーン: 非グローバルゾーンは、Solaris システム上に作成された論理要素です。論理システムは、ゲストシステムに相当します。

HPE Operations Agent は、グローバルゾーンと非グローバルゾーンの両方にインストールできます。グローバルゾーンでは、HPE Operations Agent は個々のゾーンを使用して、リソース使用率データを BYLS メトリッククラスに記録できます。HPE Operations Agent は非グローバルゾーンを単一の物理システムと見なし、ゾーンの状況およびパフォーマンスを示すデータを記録します。

第5章：HPE Operations Agent Health View を使用した HPE Operations Agent の状況監視

HPE Operations Agent Health View は、HPE Operations Agent の状況の概要を簡単に表示できる状況監視ツールです。複数の管理ノードを備えた大規模な環境において、HPE Operations Agent Health View をエージェント ノードで有効にすると、発生した問題を迅速に特定してトラブルシューティングすることができます。

HPE Operations Agent Health View には、次の機能があります。

- HPE Operations Agent の状況に関する概要を示す一元化された統合ビューまたはダッシュボード ビュー。
- 個々のノードの状況およびパフォーマンスを示すノード ビュー。リソース使用率の詳細をグラフ形式で表示できます。
- HPE Operations Agent プロセスのリソース使用率、状況、ポリシーパラメータ詳細を示すプロセスビュー。

HPE Operations Agent Health View を使用すると、複数の管理ノードがある複雑な環境で発生した問題を迅速に特定しトラブルシューティングすることができます。詳細については、『HPE Operations Agent ユーザーガイド - Health View』を参照してください。

第6章：他の HPE ソフトウェア製品との統合

HPE Operations Agent を他の HPE ソフトウェア製品と統合し、HPE Operations Agent が収集したデータ、または HPE Operations Agent のデータストアに格納されたデータを表示、分析することができます。

HPOM

HPE Operations Agent の運用監視コンポーネントによりエージェント ノードを HPOM 管理サーバーと統合し、分散監視環境を作成することができます。詳細については、『HPE Operations Agent インストールガイド』を参照してください。

HPE Operations Manager i (HPE OMi)

HPE Operations Agent を HPE OMi と共に使用すると、監視システムで稼働するビジネスアプリケーションを監視できます。HPE Operations Agent によって収集されたメトリックは、グラフ、図表、イベントのテーブルを生成し表示するために HPE OMi によって使用されます。HPE Operations Agent は一元化されたコンソールにアラートを送信し、HPE OMi がアクションをイベントに結び付けできるようにします。

HPE OMi のパフォーマンスダッシュボード コンポーネント:

HPE OMi のパフォーマンスダッシュボード コンポーネントでは、HPE Operations Agent によって収集されたデータを使用して、監視対象の構成アイテムタイプ (CIT) 用のダッシュボードを作成し、カスタマイズすることができます。カスタムダッシュボードは、監視対象エンティティのパフォーマンスの評価および使用傾向の分析に役立ちます。

HPE OMi 管理パック

OMi 管理パックは、HP OMi の監視機能を強化するために使用します。可用性とパフォーマンスのメトリックは、HPE Operations Agent のデータストアに格納され、このデータストアはレポート作成ソリューション (HPE Operations Bridge Reporter)、グラフ作成ソリューション (Performance Manager i) によって使用されます。

HP Reporter

HP Reporter は HPE Operations Agent が収集したデータから、複数のフォーマットで詳細なレポートを作成することができます。HP Reporter の操作と検出機能の情報については、『HP Reporter コンセプト ガイド』を参照してください。

HP Performance Manager

HP Performance Manager を使用し、HPE Operations Agent のデータストアから入手できるデータをグラフや図表形式で表示、分析することができます。

HPE Operations Agent のリアルタイム計測 (RTM) コンポーネントの追加ライセンスを購入して、HP Performance Manager 9.00 の Diagnostic View (診断ビュー) 機能を使用している

場合は、さまざまなノードから収集したメトリック データを (履歴 データと共に) リアルタイムで監視することができます。

HPE Operations Bridge Reporter (HPE OBR)

HPE OBR はドメイン間の履歴 インフラストラクチャ パフォーマンス レポート 作成 ソリューションです。HP SHR はエージェント データストアからデータを収集し、それを HP SHR のデータストアに格納します。HPE OBR は、HPE Operations Agent に備えられている JCodaAccess API を使用してデータを収集します。エージェント データストアから収集されたデータは、容量計画、およびパフォーマンスと状況分析に使用されます。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

コンセプトガイド (Operations Agent 12.01) に関するフィードバック

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hpe.com 宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。